

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1298900018
法人名	有限会社 松風
事業所名	グループホーム 松風
訪問調査日	平成 20年 4月 24日
評価確定日	平成 20年 5月 20日
評価機関名	日本高齢者介護協会 千葉県支部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1298900018		
法人名	有限会社 松風		
事業所名	グループホーム 松風		
所在地 (電話番号)	〒287-0011 千葉県香取市津宮 1932-1 (電話) 0478-50-5680		
評価機関名	日本高齢者介護協会 千葉県支部		
所在地	〒263-0012 千葉県稲毛区萩台町 696-132		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	5月20日

【情報提供票より】(20年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.3	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~52,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費25,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円

(4) 利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉県立佐原病院、国保小見川総合病院、篠塚歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

香取市郊外に平成19年5月に開設された平屋木造1ユニットのホームです。周囲には田園風景が広がり、遠くに香取神宮の森も見え、全体にゆったりと作られ、裏庭では家庭菜園もでき環境に恵まれています。このホームのサービスの特徴は、理念にも掲げています「一人一人を尊重し、その人の生きがいを大切に、又その人の能力を生かせるように愛を持って援助する」ことで、職員は明るく元気に思いやりをもって利用者の介護サービスに努めています。アンケートでも「少人数なので目が届き、本人も家族も満足しています」との声が多く寄せられています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回初めての外部評価のため、前回課題はありません。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 運営者、管理補助者は自己評価の意義を理解し、評価を活かして改善に取り組もうとしています。今回の自己評価のまとめは、運営者と管理補助者が相談してまとめており、外部評価訪問時にも積極的にアドバイスを求め、サービスの向上に役立てようとしています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 管理者は、運営推進会議の意義を理解し、平成19年8月、平成20年2月に、市介護保険担当、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族、職員(管理者、職員など)で、開催しています。当初はホーム見学や介護保険制の説明をし、現在は地域との関わりについて話合っています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族の来訪時に意見・要望を聞き、その都度対応しています。又苦情箱を設けたり、運営推進会議で家族の意見・要望を汲み上げ、改善、対応しようとしています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、一般行事(総会、区長会、消防訓練)に参加するだけでなく、草取り、掃除など地域に貢献する行事にも積極的に参加しています。毎日の散歩時には隣の方に挨拶し、地域に溶け込もうと努力しています。現在は、ボランティアの受け入れや近くの小中学校との交流を検討しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「・入居者様一人ひとりを尊重した対応をしていきます。①入居者様の生きがいを見つける手助けができ、又その生きがいを大切に、毎日が笑顔で楽しく生活ができるように援助します。②個人のできることを尊重し、その能力を日常生活に生かせるよう支援します。・愛をもって援助します。」を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げ、理念と重点目標「地域との連携を深め地域福祉の核となるよう努力します」を、月1回の職員会議で確認し、日常の介護サービスで実践するように努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、一般の行事(総会、区長会、消防訓練)に参加するだけでなく草取り、掃除など地域に貢献する行事にも積極的に参加しています。毎日の散歩時には近隣の方に挨拶し、地域に溶け込もうと努力しています。現在は、ボランティアの受け入れや近くの小中学校との交流を検討しています。	○	地域の方々にお茶飲み友達になって気軽に来て頂くことを目標に、年1回ホームを開放しホーム祭りを開催する事を望みます。その際地域のボランティアを受け入れて催し物を行ったり、従来からの念願だった映写会を実施する事を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理補助者は自己評価、外部評価の意義を理解し、評価を活かして改善に取り組もうとしています。今回の自己評価のまとめは運営者と管理補助者が相談してまとめており、外部評価訪問時にも積極的にアドバイスを求め、サービスの向上に役立てようとしています。	○	自己評価を作成する場合、課題の共有化のため職員の意見を聞いてまとめる事を望みます。又外部評価ができましたら、職員会議で報告し、色々話し合っって課題の改善に努めることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議の意義を理解し、平成19年8月、平成20年2月に、市介護保険担当、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター、利用者家族、職員(管理者、職員など)で、開催しています。当初はホーム見学や介護保険制の説明をし、現在は地域との関わりについて話合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題があった時に、その都度市担当に相談しています。又グループホーム連絡会、運営推進会議にも市担当には出席頂き、連携を取るよう努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶり・健康状態を報告しています。金銭管理は、個々に出納帳を作成し、領収書添付の上、月1回家族に報告しています。	○	毎月利用者の個人別のお便り(暮らしぶり、健康状態など)を家族にお知らせする事を望みます。又当面3ヶ月に1回ホーム新聞を発行し、ホーム全体のお知らせ(行事内容、職員の異動、トピックスなど)する事を望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に意見・要望を聞きその都度対応しています。又苦情箱を設けたり、運営推進会議で家族の意見・要望を汲み上げ、改善・対応しようとしています。	○	家族には、なかなか来訪が困難な方、会議で性格上意見の言い難い方、皆さんの前で言い難い事項など色々ありますので、年1回ホーム独自のアンケート(サービス事項中心)を実施し、サービスの向上に役立てることを希望します。又、第三者機関として介護相談員の受け入れ検討を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	相性を考えて職員を配置しています。職員には、特別な利用者に思い入れがないように指導し、職員が離職する時は、利用者のダメージを極力抑えるため、利用者に応じて直前に伝えたり機会を見てそれとなく伝えたりしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人が入所した時は、約1ヶ月ベテラン職員に付き添い実地研修しています。内部研修は時々実施し、外部研修はその内容に応じて職員に紹介し、受講を促しています。その時の受講料、交通費はホーム負担、日勤扱いとしています。又研修受講者には内部研修の報告者になるようにしています。	○	早急に新人研修のカリキュラム・マニュアル作成を望みます。ホームの基本理念、特徴、グループホーム概要、認知症とそ介護対応方法などをまとめ、新人が自分でも学習できるようにする事を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4ヶ月に1回の地域グループホーム連絡会に積極的に参加し、交流を通してサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が何度も訪問し本人に見学してもらって納得されて利用されるようにしています。主に、デイサービスの利用者が入居されることが多い様ですが、ケアマネジャーからも情報を得て見学訪問したり、1泊の体験をしたりして利用を決定されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活者としての利用者は、内面の細かな感情や性格があるがままに表出されることを踏まえて、恣意的と思われず利用者のプライドが傷つかない言葉かけによって、喜怒哀楽が素直に出る工夫をされています。利用者から教えを請うようにし、行動だけでなく適切な言葉で支える関係を築くようにされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や1対1での会話を通じて、本人の希望の把握に努めています。何気なく声かけすることで出てくる本音を実現できるよう工夫されています。面会時の家族との話から情報を得て、本人の気持ちに添った希望が叶うよう計画を立てたりしています。現在センター方式の採用を検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報は面会を通して、職員が日常の関わりから掴んだ情報は業務日誌や個人ファイルに集め、多くの意見をまとめて担当者会議に近いものを開いて意見を反映させた介護計画にしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在は、立てられた計画の定期的見直しはされていませんが、入退院などの再入居時は利用者の状態に変化が見られるため、関係者と話し合いのもと計画変更をされています。昨年度は2名ありました。	○	より深い観察力を職員が持つためにも、日毎に変わる利用者の微妙な変化を見逃さないためにも、3ヶ月毎に定期的な見直し機会を持たれるよう希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の以前から使っている美容院や、デイサービス利用などに職員が付き添うなど施設で可能な限り柔軟に対応しています。医療機関への受診時の送迎も含めて本人の希望に応じた対応が出来るよう事業所の機能を活用し支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は月1回は定期受診されています。医院や病院など、なじみの医師に会うことが心の安寧に繋がるといことで、送迎だけでなく受診に付き添っています。同じ医師の往診受け入れ者5名の内2名は毎月1回、3名は3月に1回往診とその間の定期的薬の処方に対応されています。4名はそれぞれ外部への受診を支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期についての話し合いは、家族との話し合いで個々の希望に添って看取りまでを行っています。専属看護師の存在で何かあったら指導から対応まで行える状況にあります。病院と連携を取りながら支障の無いように支援されています。	○	更に利用者の要望や希望、利用者の生きる姿勢を含めた緊急時・終末期の支援状況が家族・職員・医師などと連携でき書類も含めて備えられるよう希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	現在、事務室が独立しているため鍵はかけていませんが、個人情報等重要書類は散在せず一箇所に集められ整理されています。管理の重要性を職員に周知し守秘義務の徹底を促しています。利用者は姓で呼ばれていますが、家族からの要望で昔の呼び名で呼ばれている人もいます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にして支援しています。各自寝覚めのスタートから違うため、希望の時間設定で朝食時間から日々の行動までを個別に支援しています。入浴だけは夜勤者が1人のため毎日の午後にと納得して貰っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員で食事を楽しめるよう、食卓で楽しみながら調理し食べられるメニュー作りを取り入れています。見晴らしの良い台所であるため、台所に入れる利用者は他の利用者によって羨望され台所に入ることを否定されたことがあり、利用者からの率先した準備や片付けが行われ難い状況にあります。お盆に湯呑みを乗せるなど下膳だけ手伝える方もいます。	○	利用者の気持ちが前向きで思いやりの感情が引き出せる言葉を選んでコミュニケーションを取り、食べることだけでなく準備や片付けまでを含んだ食事の楽しみが増す事を希望します。レベル保持のためにも能力ある利用者が台所に入ったときには、カーテンなどで仕事ぶりを他の利用者に披露できないような工夫も必要かと思われます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	脱衣場に出入りのカーテンをつけるなど個人のプライバシーが守られるよう配慮され入浴されています。一人あたり週2～3日毎に入浴されています。午後2～5時の間にいつでも入浴が可能です。通常1人介助で、立位不可の人は2人介助で行っています。バスリフトを使用し介護度4の人まで対応しています。本人の体調などをみながら入浴を楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の午前中と夕食後にレクリエーションを行っています。予定表を作成し、個人個人の様子が記録されています。職員が誰でもマニュアルにそって指導できるよう準備がされています。百人一首や歌など無理強いせず好きな人同士で楽しみを共有し気晴らしをはかっています。民謡、踊り、工作、合唱などボランティアを受け入れています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨、冬や花粉症時の外出は控えても、天気の良い日は散歩など近場で外に出る支援をしています。年2回は花見やブドウ狩りなど遠方外出も企画しています。個人の要望に添って理容・美容目的の外出も含めて日々の外出の機会が増えるよう支援しています。外出ボランティアを受け入れる予定をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけずに生活されています。夜間は防犯上鍵をかけています。帰宅願望がある方には、職員が付き添って会話することで対応されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会主催の消防訓練に、管理者が参加しています。ホームには、緊急連絡先、緊急時の対応手順を掲示し、消火器を置いています。現在消防署を呼んだ消火訓練を検討中です。	○	年1回は消防署を呼んだ消火訓練、1回はホーム職員、利用者の避難訓練実施を望みます。消防署を呼ぶ時は、AEDを使った救命救急措置講習会などを企画し、近隣の方に声をかけることをお勧めします。その際、時には近くに住んでいる職員にも駆けつけてもらう実際的な訓練も期待します。又、災害時用に2日分位の備蓄を希望します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食、間食、入浴後、服薬時に、1日1～1.5ℓを目安に水分摂取しています。食材は職員が買い出しに行っています。1月分のメニュー表を作成し栄養バランスに気をつけています。カロリー計算はされていませんが、野菜を多く取る・昼はみそ汁抜きにする・肉・魚の好みに配慮する・成人量より少なく盛りつけることなどで対応されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、天井が高く日当たりもよく明るく清潔で、全体がゆったり広々としています。椅子、ソファがあり、利用者が思い思いに寛いでいるのが印象的です。季節感を出すため、花を飾り、壁には行事のスナップ写真、押し花、5月節句の折り紙などがきれいに飾られセンスの良さを感じます。利用者が居心地のよいように配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん思い思いに自分の気に入った物・馴染みの物(家具、人形、写真、観葉植物、絵画など)を持ち込み、自分の家にいるように居心地よく過ごしています。又ホーム職員手作りのカラー暦(個人の写真入り)が各部屋に貼られ、ホーム・職員の利用者への思いやりを感じます。		